

ドイツ語の与格(Dativ)表現と 日本語のやり・もらい表現について

野上 さなみ

0. はじめに

本稿は、ドイツ語の物・情報・感情・利害などの「やり取り」を表現する動詞に関連する与格(以下Dativと呼ぶ)の用法と、それに対応する日本語の様々な表現形式についての対照研究である。結論として、次の三点を論証する:

1. **Nehmen** (引き離し)および**Geben**(譲与)の動詞に関して、ドイツ語の場合、**Dativ**が移動する物・情報などの起点(SOURCE)と終点(GOAL)の両方を指示できるのに対して、日本語ではこの二者を指示するために二つの助詞、「-から・-に」を使い分けなければならないこと。
2. ドイツ語の**Dativ**の場合、同じGOALでも**REZIPIENT**(物や情報の「受け取り手」)および**BENEFAKTIV**(物や情報は受け取らないが、利益は受け取る「受益者」)の両方を表示できるけれども、日本語の助詞「-に」は、**REZIPIENT**を含意することなく**BENEFAKTIV**のみを表示できないこと。
3. 1. および2. からの結論として、ドイツ語の**Dativ**と日本語の助詞「-に」の意味領域の重点にずれがあること。

1. ドイツ語「Dativ」の用法と対応する日本語の表現について

ドイツ語の**Dativ**は、格体系の中で比較的統一性・まとまりのある機能・意味を示す格といわれる。これについて、ZIFONUN&HOFFMANN&STRECKER(1997: p.1337)は次のように述べている:

…daß, der Dativ prototypischerweise nicht aktive, belebte und verhältnismäßig weniger stark involvierte Ereignisbeteiligte repräsentiert. (与格は、典型的には非能動的で有生

な、そして比較的出来事への巻き込まれ方がそれほど強くない参加者を提示する…)

そのような統一性の中でもドイツ語のDativの用法が多様であることは確かである。本稿では主に以下に述べる3つのDativの用法と、それに対応する日本語の諸用法(助詞および動詞の形式)について検討する。Dativの代表的な用法としてまず、**間接目的語としての用法 (Objektdativ)** が挙げられる:

- (1) a. Meine Mutter schickt **mir** REZIPIENT(GOAL) ein Paket.
母は私に小包を送る。
- b. Der Weihnachtsmann gibt **den Kinder** REZIPIENT/BENEFAKTIV (GOAL)
Geschenke. サンタクロースは子供達にプレゼントをあげる。

Dativは、いづれも直接目的語の指示対象の「受け取り手」(REZIPIENT)であり、(1) b. の場合は同時に「受益者」(BENEFAKTIV)としての解釈も抵抗無く受け入れられる。すなわちこれらのDativは、やり取りされる物体の終点(GOAL)を表しており、対応する日本語の文では、それが助詞「-に」で表現されている。それに対して例文(1) c. & d. では、Dativ で表現されている指示対象がやり取りされる対象の本来の所有者を表す、つまり移動の起点(SOURCE)を表している。(1) c. では、Führerschein(免許証)を取り上げられたDativ名詞句は、被害者(GESCHÄDIGTER)の役割も同時に担っていると言える:

- (1) c. Der Polizist entzog **dem Mann** SOURCE/GESCHÄDIGTER den Führerschein.
警官はその男から免許証を取り上げた。
- d. Ich entführe **dir** SOURCE die Feder!
ちょっと君からペンを借りるよ!(entführen: 誘拐する・さらう)

これらSOURCEを表す名詞句については、日本語では助詞「-に」を使用することができず、別の助詞「-から」を用いなければならない。ドイツ語では、やり取りの動詞においてSOURCEとGOALを同一の格Dativで表現することが可能であるが、日本語ではこの二つを異なる助詞で区別しなければならない。

次に、Dativ が直接目的語名詞句の所有者を表す、いわゆる **Pertinenzdativ** の用法がある。日本語で動詞の態を変化させずに意味が対応する文を作るとすると、助詞「-に」ではなく、「-の」を使用することになる:

- (2) a. Lora betrat **dem Hund** POSSESSOR den Schwanz.

ローラは その犬の/*その犬に しっぽを踏んだ。

b. Lora wäscht **dem Kind**_{POSSESSOR} die Hände.

ローラは その子供の/*その子供に 手を洗った。

この他に、助詞を使用せず、動詞の態を変えたり複合動詞を用いるなどして、動詞に何らかの操作を加えることで、ドイツ語で **Pertinenzdativ** を用いているのと同じの状況を叙述することが可能である。(2) a' はいわゆる「迷惑受動態」を使用し、(2) b' は元の動詞の語幹+ -てに「やる(あげる)・もらう・くれる」といった「やり・もらい」の動詞を付加することでできる複合動詞を使用している。いずれの場合にも、直接目的語名詞句の所有者(POSSESSOR)は複合動詞の主語として現れる。このPOSSESSORが、動詞語幹によって叙述される行為から被害を受ける場合には(2) a' のように迷惑受動態を、利益を受ける場合には(2) b' のように「-てもらう」を付加した複合動詞を用いる:

(2) a'. Lora betrat **dem Hund**_{POSSESSOR} den Schwanz.

その犬は_{POSSESSOR} ローラにしっぽを踏まれた。

b'. Lora wäscht **dem Kind**_{POSSESSOR} die Hände.

その子供は_{POSSESSOR} ローラに手を洗ってもらった。

最後に、利害の被り手を表す、**Dativ commodi/incommodi** が挙げられる。(3)の a.&b.のように、指示対象が利益を被る **Dativ commodi** に対応する日本語の名詞句には、助詞「-に」ではなく「-のために」を使用しなくてはならない:

(3) a. Er fuhr **mir** -REZIPIENT/+BENEFAKTIV das Auto in die Garage.

彼は 私のために/*私に 車をガレージに入れた。

b. Er reparierte **seinem Opa** -REZIPIENT/+BENEFAKTIV das Auto.

彼は 祖父のために/*祖父に 車を修理した。

指示対象が被害者となる **Dativ incommodi** に対応する名詞句を日本語で表現する場合にも、動詞の態を変えずに助詞「-に」を使用する構文は不可能である。構文を変えないのならば、「私の」と所有者の表現を用いるべきである。(3) c. のドイツ語に対応する最も自然な日本語の表現は、いわゆる迷惑受動態を用いたものであろう。この場合にも被害者にあたる人物は動詞句の主語として現れる:

(3) c. Die Kinder machten **mir** -REZIPIENT/+GESCHÄDIGTER die Party kaputt.

子供達は私の/*私にパーティーをめちゃくちゃにした。

→ 私は、子供達にパーティーをめちやくちやにされた。

以上三つの意味・用法の関係は流動的であり、重複しているケースもあれば、単独で機能しているケースもあり、明確な境界線が常に存在するというわけではない、ということには既に指摘されている。^{註1}(1) b. はREZIPIENTとBENEFAKTIVが重複して用いられているDativの例であり、(2) a.&b.のDativ名詞句は、POSSESSORであるが特に何も受け取らず、利益あるいは害のみを被る者、すなわちGESCHÄDIGTERあるいはBENEFAKTIVとして用いられている例である。(3) a.&b.のDativ名詞句もあらためて何かを受け取るわけではないので、BENEFAKTIVとしてのみ用いられている例である。

2. Nehmen-Verben, Geben-VerbenとObjektdativ および助詞「-に」

Objektdativ と日本語の助詞「-に」を対照するにあたり、やり取りを表現する動詞を、表現の重点の置き所に応じて分類する。例文(1) a. &b. の動詞はいずれも、「ある対象に何かを引き渡すこと」を叙述する動詞である。これを **Geben-Verben** と呼ぶことにする。(例として *schenken* 贈る, *abgeben* 渡す, etc.が挙げられる。)このタイプの動詞とともに用いられる Dativ は、やり取りされる対象のREZIPIENT (GOAL) を表す:

(1) Geben-Verben

- a. Meine Mutter schickt mir REZIPIENT(GOAL) ein Paket.
母は 私にREZIPIENT(GOAL) 小包を送る。
- b. Der Weihnachtsmann gibt den Kinder REZIPIENT/BENEFAKTIV Geschenke.
サンタクロースは 子供たちにREZIPIENT/BENEFAKTIV プレゼントをあげる。

逆に「ある対象から何かを引き離すこと、あるいは自らが離れること」がポイントとなっているタイプの動詞を **Nehmen-Verben**と呼ぶことにする。(例としては、*stehlen* 盗む, *abschneiden* 切断・遮断する, etc.がある。) (4)の 三つの動詞 *klauen*, *entreißen*, *entlocken* のいずれの場合も、ともに使用されている Dativ は直接目的語名詞句の指示対象の「最初の所有者・所属先」(VOR-POSSESSOR)、すなわち移動のSOURCEを表している。Geben-Verben の場合、日本語の助詞「-に」がやり取りされるものの移動のGOALを表現できることは、すでに例文(1) a.&b.で確認した。しかし Nehmen-Verben の場合、移動のSOURCEを表現するために助詞「-に」を使用することはできない:

(4) Nehmen-Verben

- a. Er hat seinem Freund_{VOR-POSSESSOR(SOURCE)} für das Kind einen Apfel geklaut. (ZIFONUN ほか:1997, p.1339)
彼はその子供のために彼の友人から/*彼の友人に一個のりんごを盗んだ。
- b. Der Dieb entriß mir_{VOR-POSSESSOR(SOURCE)} die Handtasche.
泥棒は 私から/*私に ハンドバッグをひったくった。
- c. Ich habe ihm_{VOR-POSSESSOR(SOURCE)} ein Geheimnis entlocken.
私は彼から/*彼に秘密を引き出した。

やり取りの動詞に関連した日本語の助詞のこの使い分けは、他動詞に限らず、Unakkusativa (非対格動詞)においても同様に見られる制限である。次の例では、主語名詞句の指示対象は本来Dativ名詞句の指示対象の内部あるいはその知覚圏内に属していなくてはならないはずだが、「そこから離脱している・していく」という状況が叙述されている。つまり、Dativ名詞句の指示対象は、離脱のGOALではなくて、SOURCEを指示している。これに対して、同一の状況におけるSOURCEを日本語で叙述するために使用できる助詞は「-から」である：

- (4) d. Mir_{SOURCE} ist das Wort entfallen. (WEGENER: 1985, p.201)
私から/*私に_{SOURCE} その言葉が 滑り落ちた。(私はその言葉を度忘れした。)
- e. Gas entströmte den Leitungen_{SOURCE}.
ガスが配管 から/*に_{SOURCE} もれた。

以上の考察から、Nehmen/Geben-Verben に関して次のように結論づけることができる：

- (5) ドイツ語のDativは、Nehmen-VerbenにおけるSOURCEとGeben-Verben におけるGOALを表すことができるのに対して、日本語では、Nehmen-VerbenにおけるSOURCEには助詞「-から」を、Geben-VerbenにおけるGOALには助詞「-に」を用いるという具合に、異なる助詞を使い分けなければならない。

3. Pertinenzdativ と迷感受動態および複合動詞について

Dativ名詞句と直接目的語名詞句の間の所有関係は、動詞の意味そのものに由来するのではなく、両名詞句の性質に依存した解釈の結果生じる付随的な要素であり、Dativそのものが直接表現するのは、動詞の意味に沿った主題役割である。^{註2} つまり(2)の例文においても、Dativの名詞句が第一に表現するのは、出来事の

GESCHÄDIGTER: 被害者あるいはBENEFAKTIV: 受益者という役割であるといえる。
 (2) a.&b.のDativは、まず被害者あるいは受益者の解釈を受け、直接目的語名詞句が身体部位を表す語であるという事実から、「その所有者である」という解釈が自然に受け入れられる。これに対して日本語の助詞「-に」は、やり取りされるもののGOALすなわち受け取り手: REZIPIENT を表現することは可能であるけれども、何も受け取ることがなく「利害のみを被る者」を表現することは許されていない:

- (2) a. Lora betrat **dem Hund**_{+GESCHÄDIGTER/-REZIPIENT} den Schwanz.
 その犬は、ローラに しっぽを踏まれた。
 *ローラは その犬に_{+GESCHÄDIGTER/-REZIPIENT} しっぽを踏んだ。
- b. Lora wäschte **dem Kind**_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} die Hände.
 その子供は、ローラに手を洗ってもらった。
 *ローラは その子供に_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} 手を洗った。

(2) a.&b.のどちらの動詞においても生じているのは利益や被害だけであり、「犬」および「子供」が特に受け取るべき対象は存在していない。すなわちDativで表されている名詞句はBENEFAKTIV/GESCHÄDIGTERではあってもREZIPIENTではない。このような主題役割を担う名詞句は、日本語の助詞「-に」で表すことが許されない。つまり助詞「-に」が表現することを許されている主題役割は、GOALの中でもREZIPIENTに限定されている、と言える。助詞「-に」の機能に以上のような制限がある日本語で、発生する「利害の被り手」を表現するためには、動詞に特別な標示を与えなければならない。主語名詞句にとって不利な出来事を叙述する場合には迷感受動態が、主語名詞句にとって有利な出来事を叙述する場合には「-てもらう」を付加した複合動詞が用いられる。

4. Dativ commodi/incommodi と「やり・もらいの複合動詞」・ 「迷感受動態」

「-あげる」「-もらう」「-くれる」といった、本来やり取りの動詞を、別の動詞の「語幹+て」に付加することでできる複合動詞を『やり・もらいの複合動詞』と呼ぶことにする。これらの複合動詞および迷感受動態は、物・情報などのやり取りではなく、^{註3}『利害のやりとり』を表現する手段として捉えることができる。まず、これらの形式の機能とメカニズムをひとつお見しておくことにしよう。

「-てあげる」, 「-てくれる」の形式においては、主語名詞句が動詞語幹で表される行為の主体すなわちAKTORであり、助詞「-に」「-のために」を伴う名詞句がその行為によって生じる利益のBENEFAKTIVを表す:

(6) 「-てあげる」&「-てくれる」の形式

- a. 私は_{AKTOR} 彼のために/彼に_{BENEFAKTIV} コーヒーを 入れてあげる.
Ich_{AKTOR} koche ihm_{BENEFAKTIV} einen Kaffee.
- b. 彼は_{AKTOR} 私のために/私に_{BENEFAKTIV} 昼食を 作ってくれる.
Er_{AKTOR} kocht mir_{BENEFAKTIV} Mittagessen.

「-てもらう」および迷惑受動態の「-される」という形式においては、主語名詞句が、動詞語幹で表される行為によって生ずる利益あるいは不利益の被り手 (BENEFAKTIV/GESCHÄDIGTER) を表し、その行為の主体 AKTOR は助詞「-に」を伴う:

(7) 「-てもらう」&「-される」の形式

- a. 私は_{BENEFAKTIV} 彼に_{AKTOR} 昼食を 作ってもらう.
Ich_{BENEFAKTIV} bekomme Mittagessen von ihm_{AKTOR} gekocht.
(Er_{AKTOR} kocht mir_{BENEFAKTIV} Mittagessen.)
- b. 私は_{GESCHÄDIGTER} 彼に_{AKTOR} パーティーを めちやくちやにされた.
*Ich_{GESCHÄDIGTER} wurde die Party von ihm_{AKTOR} kaputt gemacht.
(Er_{AKTOR} machte mir_{GESCHÄDIGTER} die Party kaputt.)

では、さらに具体的な例をいくつか検討してみよう。(8) a. と(8) b. を比べると、(8) b. の許容度がやや高いのはなぜだろうか?

- (8) a. *彼は私に ケーキを焼いた。 Er backte mir einen Kuchen.
b. ?彼は私に ケーキを焼いてくれた。 Er backte mir einen Kuchen.
c. 彼は私のために ケーキを焼いた/焼いてくれた。
Er backte für mich einen Kuchen.

助詞「-に」の使用範囲が、REZIPIENT に限定されていることは、第3節の最後で既に指摘した。ケーキを焼いたからといって、それが必ず誰かに受け取ってもらえるとは限らない、すなわち必ずしもREZIPIENTの存在を前提とする行為ではないので、(8) a. の段階で助詞「-に」を使用するには無理がある、と言えるだろう。

(8) b. では、動詞がやりもらいの複合動詞の形になっているので、何らかの利害のやり取りが存在することはこの動詞の形式によって既に標示されている。さらに、「ケーキを焼く」というフレーズでは、「焼く」という行為によって「ケーキ」という対象が新たに生

産される。「ケーキを焼く」行為から、動詞の形式によってすでに明確に示されている利益を受けるためには、ごく自然な文脈においては、まずその生産物である「ケーキ」を『受け取ること』が前提となる。つまり、このフレーズが叙述する状況においては、ある名詞句がBENEFAKTIVであると認識されるためには、まずREZIPIENTであることがあらかじめ内含されていなければならない。この『REZIPIENTが内含されている』という性質ゆえに、助詞「-に」の使用が認められる可能性が高まる、と考えることができる。すなわち、REZIPIENTとBENEFAKTIVが一致している時のみこの文は成立する。(8)c. で名詞句に続く「-ために」は、受益者を直接表現するので、動詞の形式がどちらであっても、文が成立する。

(8)の例のように、自然な文脈の中で、受益のためには何かを受け取ることが前提となるタイプのフレーズ、つまり『BENEFAKTIVであることがREZIPIENTであることを前提とする』ようなフレーズでは、「-てくれる」と助詞「-に」を組み合わせることが認められる可能性が強い。例として挙げられるのは、食事を作る、衣服を縫う、などで、(6)の例文はこれらに含まれるといえよう。

反対に(9)や(10)のように、何かを受け取るという解釈が成立しないタイプのフレーズでは、複合動詞と組み合わせる利害のやり取りを標示したとしても、BENEFAKTIVを表すために助詞「-に」の使用は認められない。たとえば、部屋を掃除する、などである。(9)&(10)では、物体のやり取りがないために、Dativおよび「-に」を伴った名詞句にはREZIPIENTの解釈があらかじめ排除されている、すなわち、これらの名詞句にはBENEFAKTIVの解釈しか認められない:

- (9) a. *彼は 私に,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 窓を 開けた。
b. *彼は 私に,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 窓を 開けてくれた。
Er öffnete **mir** das Fenster.
c. 彼は 私のために,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 扉を 開けた/開けてくれた。
Er öffnete **für mich** das Fenster.
- (10) a. *彼は私に,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 車を修理した。
b. *彼は私に,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 車を修理してくれた。
Er reparierte **mir** das Auto.
c. 彼は私のために,+BENEFAKTIV/-REZIPIENT 車を修理した/修理してくれた。
Er reparierte **für mich** das Auto.

助詞「-に」は REZIPIENT 以外の解釈を許されていないため、「-に」が単独ではBENEFAKTIV を表現することができず、(9)a.&(10)a.は非文となる。(9)b.&(10)b.は、複合動詞が共に用いられて、利害のやり取りが標示されているにもかかわらず、「窓を

開ける」、「車を修理する」というフレーズには利害以外の何かの受け渡しは含まれていないため、「-に」を伴う名詞句にREZIPIENTの解釈はありえない。したがって、この名詞句にはBENEFAKTIVの役割しか与えられないことになり、文が成立しない。(9)c. & (10)c.のように、BENEFAKTIVであることを直接表現できる「-のために」を伴ってはじめて、単一動詞・複合動詞の両方との組み合わせで、文が成立する。

複合動詞を「-てあげる」に取り替えても、助詞「-に」に関するこの原則に変わりはない。(11)a.&(11)b.では、出来上がる生産物のREZIPIENTとしての解釈が許されるゆえに、BENEFAKTIVである名詞句を助詞「-に」で表すことができるけれども、(11)c.&(11)d.では、BENEFAKTIVである名詞句がREZIPIENTではありえないため、助詞「-に」を使用することができない。これに対して、意味が対応するドイツ語では、たとえREZIPIENTの役割が欠けていてもBENEFAKTIVの役割を担う名詞句ならばDativで表すことができる((11)の全例文における Dativ: ihm を参照)：

- (11) a. 私は 彼に_{+BENEFAKTIV/+REZIPIENT} 昼食を作ってあげた。
 Ich kochte ihm Mittagessen.
- b. 私は 彼に_{+BENEFAKTIV/+REZIPIENT} ケーキを焼いてあげた。
 Ich backte ihm einen Kuchen.
- c. 私は 彼に_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} 車を修理してあげた。
 Ich reparierte ihm das Auto.
- d. 私は 彼に_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} 事務所を掃除してあげた。
 Ich putzte ihm das Büro.

最後に「-てもらう」および「-される」の例を見ておくことにしよう。(12)の例文では、主語が動詞語幹で示される行為によるBENEFAKTIVを、助詞「-に」を伴う名詞句がその行為のAKTORを表す。主語名詞句にREZIPIENTとしての性質があってもなくても、この構文は使用できる：

- (12) a. 私は_{+BENEFAKTIV/(+)REZIPIENT} 彼に_{AKTOR} ケーキを焼いてもらった。
Er_{AKTOR} backte mir_{+BENEFAKTIV/+REZIPIENT} einen Kuchen.
- b. 私は_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} 彼に_{AKTOR} 事務所を掃除してもらった。
Er_{AKTOR} putzte mir_{+BENEFAKTIV/-REZIPIENT} das Büro.

(13)は迷惑受動態の例である。主語は動詞語幹で叙述される行為による被害者(GESCHÄDIGTER)を表し、助詞「-に」を伴う名詞句は、その行為のAKTORを表す。この構文では、被害を被っていれば、何かを受け取っているかあるいは手放しているか

といった、REZIPIENTとしての性質いかんによらず、主語になることができる：

- (13) a. 私は_{GESCHÄDIGTER} 彼に_{AKTOR} ケーキを食べられた。
Er_{AKTOR} aß mir_{GESCHÄDIGTER} den Kuchen.
- b. 私は_{GESCHÄDIGTER} 彼に_{AKTOR} 事務所を汚された。
Er_{AKTOR} beschmutzte mir_{GESCHÄDIGTER} das Büro.

5. 結論

ドイツ語のDativが持つ「非能動的に出来事に巻き込まれている」という性質には多様な側面がある。日本語の助詞「-に」の用法と比較対照してみると、その中でも基調をなすのは、動詞が叙述する出来事によって引き起こされる利益・不利益の被り手という役割(BENEFAKTIVあるいはGESCHÄDIGTER)であると言える。それゆえに、実際REZIPIENTとしての性質が欠落している名詞句であっても、利害の影響を受けるならばDativによる表示が認められる。一方日本語の助詞「-に」の意味の基調をなすのは、REZIPIENTとしての役割であると言える。それゆえに、この役割を内含しないタイプの役割や意味を表示することができない。助詞に対するこの制限を補う形で、REZIPIENTの役割を持たないタイプのBENEFAKTIVやGESCHÄDIGTERを主語にした複合動詞や迷感受動態が機能している。

BIBLIOGRAPHIEおよび参考文献

- Dürscheid, C.(1999): Die verbalen Kasus des Deutschen. Berlin, New York.
Eisenberg, P.(1998): Grundriß der deutschen Grammatik. Band 1: Das Wort. Stuttgart.
Henschel, E.& Weydt, H.(1990): Handbuch der deutschen Grammatik. Berlin.
Wegener, H.(1985): Der Dativ im heutigen Deutsch. Tübingen.
Zifonun, G.& Hoffmann, L.& Strecker, B.(1997): Grammatik der deutschen Sprache, Band 2. (Schriften des Instituts für deutsche Sprache, Band 7.2.) Berlin, New York

註1&註2: ZIFONUN&HOFFMANN&STRECKER(1997)参照。註3:実際に具体的・物理的な物のやり取りが無くても、それに倣った形で意識・感情などのやり取りが叙述されている例は数多くある。これらは、一般的な意味で言う「やり取りの動詞」が心理的なレベルで応用されるヴァリエーションとし、『やり・もらいの複合動詞』とは区別して扱う。